

平成27年9月関東・東北豪雨における対応 常総市災害ボランティアセンターでの情報利活用について



災害リスク研究ユニット 特別研究員 水井 良暢

はじめに

2015年9月10日、茨城県常総市内では甚大な浸水被害が発生しました。

市では発災後まもなく災害ボランティアセンター（以下：災害VC）が開設されました（写真1）が、組織構築・人員確保・業務遂行などさまざまな運営面で混乱しており、作業効率が良いとは言えない状況でした。



写真1 常総市災害ボランティアセンター

災害VCでの活動概要

常総市に隣接する、つくば市社会福祉協議会（以下：社協）を經由し、常総市社協から支援要請を受け、防災科研災害リスク研究ユニットは災害VCにおいて技術支援・調査を開始しました。

9月12日（土）から活動調整を行い、14日（月）の市災害VC開設時からeコミュニティ・プラットフォーム（以下：eコミ）をベースとした災害VC運営支援キット（以下：VCキット）を導入し、



図1 県と市役所と災害VCの情報共有マップ



図2 ボランティアニーズ情報表示(11/20時点)
※赤色ピン新規ニーズ、青色ピン活動済み

情報の利活用支援を実施しました。

同時期に開設された県（行政）災害VCにもVCキットを導入し、県と市の両者間でのニーズ情報共有を実現しました。また、市役所から公開されている地域の被害情報なども共有マップにて重ね合わせし利用しました（図1、図2）。

利活用されたシステムについて

VCキットとは、東日本大震災（2011）、茨城県つくば市の竜巻災害（2012）、山形県南陽市の豪雨災害（2014）、広島県広島市の土砂災害（2014）、長野県白馬村の地震災害（2014）での

活用・検証を経て、災害VCを円滑に運営するための「データ管理・表示・情報共有・受発信」を組み合わせたeコミの機能セットです。

今回は特に、災害VC運営作業入口のボトルネックとなる「被災者から出される膨大なボランティアニーズ情報の処理」の効率化をはかり全体運営の迅速化を目指しました。

常総市のVCキットURLは以下となります。なお、運営者向け詳細ページは関係者のみ利用可能となっています。

<http://vc.ecom-plat.jp/ibaraki/>

災害VCでの作業内容

ボランティアニーズの情報管理と、活動状況把握（作業状態・内容・被災者の健康など）を行うために「ニーズ情報入力（写真2）」、「データベースを構築」、「活動場所のマッピング表示」を実施しました。

また、市外部から多く参加される被災地域の土地勘が無いボランティアのために「活動場所への案内マップ（写真3）」や「地域の被害状況や資源マップ」を印刷し、個々の活動の支援にも役立てました。



写真2 ニーズ情報入力作業(情報ボランティア)



写真3 活動場所への案内マップ(ニーズマップ)

活動の効果と今後の課題

今回の活動では以下の効果が認められました。

- 1) 情報連携、表示共有で作業の2度手間を防ぐ
- 2) マップと検索機能を活用し作業効率向上
- 3) 県・市の公開情報を共有できる（県災害VC、道路状況、仮設トイレ、避難所など）
- 4) 情報を利用し、現状把握し活動計画に反映、報告に利用、活動履歴の確認ができる（写真4）

今後の課題としては、「システム操作の簡素化」、「機能の追加」、「円滑な作業の引き継ぎ手法」、「行政・関連団体間での情報連携のさらなる強化」があげられます。

順次、改良に取り組んでまいります。



写真4 災害VCの活動計画に利用(運営スタッフ)